



平成31年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年6月8日

上場会社名 株式会社ストリーム 上場取引所 東
 コード番号 3071 URL https://www.stream-jp.com/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)松井 敏
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員管理本部長 (氏名)高瀬 宏平 (TEL) 03(6858)8189
 四半期報告書提出予定日 平成30年6月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年1月期第1四半期の連結業績(平成30年2月1日~平成30年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第1四半期	5,729	10.2	32	73.0	31	117.9	31	89.3
30年1月期第1四半期	5,199	△6.5	18	△80.0	14	△82.6	16	△75.8

(注) 包括利益 31年1月期第1四半期 29百万円 (85.0%) 30年1月期第1四半期 16百万円 (△76.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第1四半期	1 14	— —
30年1月期第1四半期	0 60	— —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年1月期第1四半期	5,302	1,865	34.1
30年1月期	5,260	1,835	33.8

(参考) 自己資本 31年1月期第1四半期 1,809百万円 30年1月期 1,778百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期	— —	0 00	— —	0 00	0 00
31年1月期	— —				
31年1月期(予想)		0 00	— —	0 00	0 00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年1月期の連結業績予想(平成30年2月1日~平成31年1月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,572	23.7	62	15.8	54	15.6	33	△11.6	1 23
通期	25,407	13.3	207	117.7	193	220.9	122	627.1	4 50

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年1月期1Q	28,525,000株	30年1月期	28,525,000株
② 期末自己株式数	31年1月期1Q	1,236,500株	30年1月期	1,236,500株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年1月期1Q	27,288,500株	30年1月期1Q	27,288,500株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成30年2月～平成30年4月)におけるわが国経済は、雇用・所得環境、企業収益の改善が続き、個人消費も持ち直しの動きが見られる等景気回復が続いているものの、海外の地政学的リスク、金融資本市場の変動の影響等により、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループは、お客様のライフスタイルづくりのサポートとして「より良いもの」「より安く」「より適確に」「より迅速に」新しい価値観の提案・提供を通して社会の発展に貢献することを経営の基本方針に、既成概念にとらわれることなくチャレンジを続け、インターネット通販事業を中心に事業活動を行っております。

事業のセグメント別の業績は、次のとおりであります。

①インターネット通販事業

当第1四半期連結累計期間における国内の家電小売業界は、冷蔵庫、洗濯機及び4K対応テレビ等の高付加価値商品への買い替え需要は依然高く、市場全体では概ね横ばいで推移しました。

このような状況の中、当社は「楽天市場」「Yahoo!ショッピング」「Amazonマーケットプレイス」等の外部サイトの売上は、前期に引き続きOA周辺機器・国産時計等を中心に堅調に推移しました。その中でも国産時計は非常に好調で、又エアコンについても前年同四半期比で伸長しており、今後も売れ筋商品の在庫施策等により更なる売上確保に努めてまいります。

サイト別では、とりわけ「Amazonマーケットプレイス」について、平成29年11月に導入した在庫保管・商品配送代行サービス「フルフィルメント by Amazon (FBA)」により業務効率の改善を図り、売上は好調に推移しています。引き続き「Amazonマーケットプレイス」サイトと連携をとりながら適宜プロモーションを行ってまいります。

一方、オリジナルサイト「ECカレント」ではWEB接客ツールを導入し、ユーザーの属性を捉え、ポップアップで特定のメッセージを表示する等最適なタイミングで接客することで、各種プロモーションと連動させて集客力を強化しております。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5,015百万円(前年同四半期比12.9%増)、営業利益36百万円(前年同四半期比42.8%減)となりました。

インターネット通販事業の売上・来店客数推移

	売上高(百万円)	営業損益(百万円)	来客数(千人)	受注件数(千件)	会員数(千人)
当第1四半期連結累計期間	5,015	36	3,263	358	10,584
前第1四半期連結累計期間	4,440	63	3,961	224	9,684

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

(百万円)

	家電	パソコン	周辺/デジカメ	その他	合計
当第1四半期連結累計期間	2,307	470	1,755	482	5,015
前第1四半期連結累計期間	2,306	522	1,168	442	4,440

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

※会員数は顧客情報を登録頂いている顧客数の累計です。

②ビューティー&ヘルスケア事業

株式会社エクスワンにおいて展開される、ビューティー&ヘルスケア事業では、新商品として、平成30年1月に、ヒト幹細胞培養液配合の美容液「X L U X E S プロケア リバーサーセラムW (ダブリュー)」を発売し、売上も堅調に推移しています。

平成30年3月には福岡に会員向けサロン(サロン・ドゥ・インナップ福岡)を開設し、会員向け新ビジネス体系の強化を行っております。又、平成26年の発売以降ロングセラーを続けているヒト幹細胞培養液を配合したコスメシリーズ「X L U X E S (エックスリュクス)」について、新たな販売チャネルの展開を図るべく首都圏、大阪、福岡の大手百貨店や駅構内等の株式会社井田両国堂が運営する店舗において、4月中旬以降順次販売を開始しました。

売上高に関しましては、ほぼ前年同四半期並みとなりましたが、福岡の会員向けサロン開設をはじめとする会員向けビジネス強化関連及び大手百貨店等の店舗販売開始に伴う売場作りに必要な什器等の確保により販売管理費が想定より増加した結果、利益面において当初計画より下回りました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は531百万円(前年同四半期比0.2%増)、営業損失20百万円(前年同四半期は5百万円の営業損失)となりました。

ビューティー&ヘルスケア事業の売上推移

(百万円)

	パーソナルケア	ヘルスケア	その他	合計
当第1四半期連結累計期間	444	61	25	531
前第1四半期連結累計期間	426	82	20	530

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しております。

※当該数値は、独立監査人による四半期レビューを受けておりません。

③その他事業(「各種販売支援事業」、「オンライン・ゲーム事業」)

「各種販売支援事業」では、国内免税店30店舗において訪日観光客向け販売支援を行っております。

訪日観光客の動向に関しましては、航空路線の新規就航や増便、クルーズ需要の増加に加え、日本政府による積極的な訪日旅行プロモーションの効果もあり、訪日観光客数全体としては好調に推移しました。観光庁の観光統計によりますと、平成30年1月～3月期における「訪日外国人旅行者数」は前年同期比16.5%増の推計762万人、消費総額は同期間で初めて1兆円を超えました。

その中で、株式会社エクスワンの扱う化粧品は各免税店にて依然販売の上位を維持しています。

「オンライン・ゲーム事業」では、共同企画・運営を行っているタイトルが、引き続き安定的な売上を確保しています。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は340百万円(前年同四半期比4.8%減)、営業利益89百万円(前年同四半期比163.7%増)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は5,729百万円(前年同四半期比10.2%増)、営業利益32百万円(前年同四半期比73.0%増)、経常利益31百万円(前年同四半期比117.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は31百万円(前年同四半期比89.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べ42百万円増加し、5,302百万円となりました。これは主に、商品163百万円増加、現金及び預金111百万円減少によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ12百万円増加し、3,437百万円となりました。これは主に、買掛金39百万円増加、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)32百万円減少によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ29百万円増加し、1,865百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益31百万円の計上によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ111百万円減少し、507百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において営業活動の結果使用した資金は、35百万円(前年同四半期は201百万円増加)となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益31百万円、非資金項目である減価償却費46百万円、仕入債務の増加額39百万円であり、支出の主な内訳は、たな卸資産の増加額164百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、42百万円(前年同四半期は36百万円使用)となりました。収入の内訳は、差入保証金の回収による収入30百万円であり、支出の主な内訳は、無形固定資産の取得による支出32百万円、差入保証金の差入による支出39百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、33百万円(前年同四半期は79百万円使用)となりました。支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出32百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年1月期の業績予想に関しましては、平成30年3月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合には速やかに開示する予定であります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	621,373	509,936
受取手形及び売掛金	1,159,748	1,150,979
商品	2,434,469	2,598,051
その他	106,139	113,726
流動資産合計	4,321,731	4,372,694
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	131,501	129,753
車両運搬具(純額)	9,283	4,971
工具、器具及び備品(純額)	47,666	45,799
土地	2,003	2,003
有形固定資産合計	190,455	182,527
無形固定資産		
ソフトウェア	367,811	363,189
その他	27,596	26,286
無形固定資産合計	395,408	389,476
投資その他の資産		
投資有価証券	12,648	12,599
出資金	270	270
差入保証金	333,969	339,273
その他	21,919	21,882
貸倒引当金	△15,876	△15,876
投資その他の資産合計	352,930	358,149
固定資産合計	938,794	930,153
資産合計	5,260,525	5,302,848

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,518,146	1,557,567
短期借入金	1,000,000	1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	138,800	120,800
未払金	319,814	332,458
未払法人税等	40,028	15,530
賞与引当金	5,466	18,466
ポイント引当金	18,028	12,513
その他	139,436	151,204
流動負債合計	3,179,720	3,208,541
固定負債		
長期借入金	144,420	129,620
繰延税金負債	2,626	2,101
その他	97,857	96,920
固定負債合計	244,903	228,641
負債合計	3,424,623	3,437,183
純資産の部		
株主資本		
資本金	924,429	924,429
資本剰余金	876,888	876,888
利益剰余金	129,570	160,679
自己株式	△152,609	△152,609
株主資本合計	1,778,278	1,809,387
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	269	220
その他の包括利益累計額合計	269	220
非支配株主持分	57,353	56,057
純資産合計	1,835,902	1,865,665
負債純資産合計	5,260,525	5,302,848

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年4月30日)
売上高	5,199,957	5,729,945
売上原価	4,056,773	4,428,627
売上総利益	1,143,183	1,301,317
販売費及び一般管理費	1,124,684	1,269,310
営業利益	18,498	32,007
営業外収益		
受取利息	17	47
受取手数料	165	10
為替差益	—	3,016
その他	111	65
営業外収益合計	294	3,140
営業外費用		
支払利息	1,612	2,543
支払手数料	1,166	693
為替差損	1,429	—
その他	—	123
営業外費用合計	4,208	3,361
経常利益	14,584	31,786
特別利益		
新株予約権戻入益	12,017	—
特別利益合計	12,017	—
特別損失		
減損損失	6,490	—
特別損失合計	6,490	—
税金等調整前四半期純利益	20,112	31,786
法人税等	4,068	1,973
四半期純利益	16,043	29,812
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△388	△1,296
親会社株主に帰属する四半期純利益	16,432	31,108

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年4月30日)
四半期純利益	16,043	29,812
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	44	△49
その他の包括利益合計	44	△49
四半期包括利益	16,087	29,763
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,476	31,059
非支配株主に係る四半期包括利益	△388	△1,296

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年2月1日 至平成30年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	20,112	31,786
減価償却費	68,012	46,877
減損損失	6,490	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	8,200	13,000
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△1,889	△5,514
受取利息及び受取配当金	△17	△47
支払利息	1,612	2,543
新株予約権戻入益	△12,017	—
為替差損益(△は益)	104	△15
売上債権の増減額(△は増加)	58,257	8,769
たな卸資産の増減額(△は増加)	△189,973	△164,145
仕入債務の増減額(△は減少)	340,603	39,421
その他	△59,429	26,262
小計	240,064	△1,062
利息及び配当金の受取額	17	700
利息の支払額	△1,502	△2,278
法人税等の支払額	△37,207	△32,834
営業活動によるキャッシュ・フロー	201,372	△35,475
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△150	△150
有形固定資産の取得による支出	△950	△942
無形固定資産の取得による支出	△35,464	△32,744
差入保証金の差入による支出	△1,007	△39,263
差入保証金の回収による収入	558	30,402
その他	218	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△36,794	△42,698
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△78,505	△32,800
その他	△592	△612
財務活動によるキャッシュ・フロー	△79,097	△33,412
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	85,480	△111,586
現金及び現金同等物の期首残高	176,454	619,523
現金及び現金同等物の四半期末残高	261,934	507,936

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年2月1日至平成29年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティ&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,440,047	528,608	231,300	5,199,957	—	5,199,957
セグメント間の内部売上高又は振替高	522	1,684	125,927	128,133	△128,133	—
計	4,440,570	530,292	357,228	5,328,090	△128,133	5,199,957
セグメント利益又は損失(△)	63,909	△5,482	33,912	92,340	△73,841	18,498

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△73,841千円は、セグメント間取引消去299千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△74,141千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

その他事業に含めて記載しているオンライン・ゲーム事業において、一部のサービスの終了に伴い、今後使用見込みのない資産全額を減損処理したことにより、6,490千円を減損損失として特別損失に計上しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年2月1日至平成30年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益計算書計上額
	インターネット通販事業	ビューティ&ヘルスケア事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,015,541	528,090	186,313	5,729,945	—	5,729,945
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,194	153,851	157,046	△157,046	—
計	5,015,541	531,285	340,165	5,886,991	△157,046	5,729,945
セグメント利益又は損失(△)	36,548	△20,562	89,435	105,421	△73,413	32,007

- (注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△73,413千円は、セグメント間取引消去△263千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△73,150千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。
3. その他事業は、各種販売支援事業及びオンライン・ゲーム事業であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。